



ふくしの参観日

まきび地域学校協働本部福祉班の行事である“ふくしの参観日”を2年ぶりに開催することができました。この行事は本校の学区である倉敷市、総社市、高梁市、吉備中央町の福祉サービス事業所、また行政関係の方々に児童生徒の学校での様子、取り組みをご参観いただき、相互の理解を深めていくことを目的としています。

当日は受付、駐車場・校内の案内を職業コース3年生の生徒が行ってくれました。福祉サービス事業所（児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援・相談支援・就労移行・就労継続支援B型・生活介護・I型・市役所・教育委員会）の関係者約150名の方々にご参加いただきました。復興した本校の姿に感動され、温かいお言葉を多くいただきました。サービスを利用している様子と学校での様子の違いに驚かれたり、実習を受けていただいた事業所からも学校の取り組みについて「参考になる」という声も聞かれたりしました。

この行事を通して、学校での様子を見ていただくことが今後の支援の充実、また卒業後の移行に向けてとても大切なことであり、学校へ関心を持ってくださっていることがとてもありがたいことだと感じ、毎年開催し、内容を充実させていきたいと思いました。



復興コンサート



12月17日（火）に、復興コンサートがありました。副校長先生と近藤PTA副会長のお話の後、本校職員・児童生徒代表者による復興エールとして、「きびのまきびっくす」を演奏に合わせて踊り元気を届けました。その後、くらしき作陽大学音楽学部8人による金管五重奏のコンサートがあり、各学部部門からリクエストした曲やアンコールには「校歌」を演奏していただきました。児童生徒は演奏に合わせて歌ったり踊ったりしながら楽しい一時を過ごし復興したことをお祝いしました。コンサート後には、PTAの厚生部によるバザーも行われました。多くの保護者の方にも参加をしていただきありがとうございました。



人権週間の取り組み

12月13日（金）高等部3年生を対象に、法務省人権擁護委員11名を講師に招いて人権学習出前授業を行いました。お互いの生命の大切さや人権尊重の大切さ、悩みを一人で抱え込まず相談できる相手を作ることの大切さを絵本や詩の読み聞かせの他、手品やギター伴奏による歌や踊りで盛り上がりながら楽しく学習することができました。



肢体不自由部門より

肢体不自由部門では、グロップサンセリテW-ACに所属する車椅子レースの選手の松永さん（選手兼監督）、佐藤さん、生馬さんをお迎えし、パラリンピックの経験談を通して人権や障害者スポーツについて考える会をもちました。先日獲得した世界パラ大会金メダルに触れたり、レース用の車椅子に試乗したりすることもできました。後日、お礼の気持ちを込め、みんなで応援旗に寄せ書きをして送りました。東京パラリンピックがますます楽しみになってきました。

